

●課長補佐 中坂正夫 ※以下中坂補佐

議事録作成のため、ICレコーダーで録音させていただきます。個人情報に関する内容につきましては、削除した形で議事録を作成いたします。ご了承ください。本日は学校を会場とすることから、非公開となっております。広聴人もございません。本日の会議は高根委員が欠席であります。松戸市いじめ防止対策委員会条例第7条2項の規定により、委員の過半数の出席があるため、今回は成立いたします。では、協議に入ります。はじめに委員長挨拶、島崎委員長、お願いいたします。

●嶋崎委員長

どうもありがとうございました。一言話をさせていただきます。では着席させていただきます。子どもたちの様子を見ても先生の指導力もそうですが、本当に素晴らしい授業をみさせていただきました。大変勉強になりました。特に、いじめと言う言葉が出たときに子どもの一人が、「道徳！」というような声が出たのですけども、やはりこちらの松戸市のいじめ防止プログラムありますけども、特別活動などでの活用など、非常に大きな役割を持っていると思っておりますので、今日みたいな授業が参考になりますので、ぜひ広めていっていただきたいと思っております。評価規準の書き方とか、授業展開のこととか、いっぱい素晴らしいところを申し上げたいのですが、時間もございませんので、このくらいにさせていただいて、大変失礼なのですけども、なんととっても今日は参加させていただいて本当によかったなど、強く思っているところでございます。私の話は以上とさせていただきたいと思っております。

●中坂補佐

ありがとうございました。続きまして会場校の校長先生より一言いただきたいと思っております。よろしくようお願いいたします。

●横須賀小学校長 奥藤先生

本日は早朝からお越しいただきまして、6年生の授業を見てくださり、ありがとうございました。私はいじめが起りにくい環境や学級作りというのは、やはり教師の力、学級経営力が関係していると日頃から思っております。今の6年生の学力状況調査の児童質問資料を見ていただくと、肯定的な考えをアンケートに書いている学年でございます。しかし、1～4年生ころは落ち着きのない学級であり、日常茶飯事にトラブルやケンカが起きていたようです。それが5年生になって担任が替わったことで子どももガラッと変わっていくのです。そういう姿を見ていて、やはり教師の力を育てていくのが、私たちの柱の部分だと思います。本日授業についてご意見を書いていただき、勉強しこれからもよりよい学校経営を、子どもたちのために行ってまいります。本日はよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

●中坂補佐

ありがとうございました。それではこの後は、今日参加していただいた方々からそれぞれお話をいただきたいと思います。立林副委員長お願いいたします。

●立林副委員長

授業前のウォーミングアップを見て、明るく元気な学級の雰囲気伝わってきました。遊びと授業のけじめをつける規律もよかったです。何よりも児童一人ひとりが学級への所属意識を持って生活していることが分かりました。学級担任が日々好ましい子どもたちの人間関係づくりに意識して取り組んでいることが分かりました。自然にこのような教師と児童、児童同士の好ましい人間関係ができることはありません。学級担任がけじめのない学級づくりに情熱をもって、効果的な方法を工夫して取り組むことが必要だと思いました。このような授業公開を通して、若い教師もベテランの教師も学級経営の技量を学んでいくことが大事だと感じました。

●中坂補佐

ありがとうございます。続きまして、吉田委員お願いします。

●吉田委員

いじめの定義について、アンケートで複数人が1人を傷つけることのイメージを持つ児童が多いことから、ふざけといじめの違いを具体的に挙げたうえでいじめの定義を確認する点は理解しやすい流れだと思いました。やられた相手がいじめと思っただけであることの意識、認識を持つことが、いじめの理解には、不可欠であると考えております。以上です。

●中坂補佐

ありがとうございます。続いて荒委員お願いいたします。

●荒委員

本日の授業は「いじめ」と「ふざけ」という子どもたちの現状にピッタリのテーマで子どもたちのいじめについての考えが引き出され深まったように感じました。また、日頃より学校方針の「早ね、早おき、朝ごはん外あそび」の取り組みや「お兄さんお姉さんと学ぼう」や学級での日頃の耕しが、今日の子供たちの生き生きした発言、態度に表われていたと思います。

●中坂補佐

ありがとうございます。では次に、井上校長先生お願いいたします。

●第六中学校長 井上先生

素晴らしい授業を見せていただき感動しました。小学校の担任が児童一人一人を理解して、学級活動をする意義を感じました。よい学級集団作りこそがいじめ防止につながることを強く感じました。以上です。

●中坂補佐

ありがとうございました。次に、生貝校長先生お願いいたします。

●小金北小学校長 生貝先生

小学校高学年で扱う内容としては、少し難しいとのかもしれないと思いました。中学

生、特に1年生の1学期に実施すると良いのではないかと思います。ただ、クラスにしっかりとルールとリレーションが身につけていて、素晴らしいと感じました。日頃から先生がきめ細かく指導していることが感じられます。傍観者にならないことは、やはり難しいという素直な感想が出ていたのがよかったです。いじめの構造を考えるとき、「クラスの中でいじめがあったら・・・」というと考えやすく、観衆、傍観者も子供から出てくると思いました。ぜひ色々な学校でも実践してほしい良いプログラムだと思いました。

●中坂補佐

ありがとうございます。いじめの定義について各学校で理解を進めていくことが不可欠であると考えております。次に、池上審議監をお願いします。

●学校教育部池上審議監

子供たちがルールを守って積極的に授業に参画していました。指導力と子ども達の資質共に恵まれていてよいと感じられました。このこともあって「構造」の理解というねらいは一定の成果があったものと思います。

●中坂補佐

ありがとうございます。では、続いて大谷課長お願いいたします。

●学校教育部大谷保健体育課長

いじめの構造についてしっかり考えられていました。(子)という表現をワークシートに入れたことが功を奏していると思います。具体的な行動がイメージできていた感じがします。また、学級の間関係の良さがそのまま表れた展開だったように感じます。さきほど校長先生からもありましたが、年度の初めに設定したい題材だと思いました。いじめ防止対策推進法があるから、いじめはいけないのか？それとも、人としてよくない・さみしい・みにくい行為だから、いじめがよくないため法律ができたのか・・・いじめの定義はもっと真に迫るものではないかと思います。発達段階や学級にもよりますが、心の内側をさらけ出せればと思います。

●中坂補佐

ありがとうございました。続きまして、山口所長お願いいたします。

●学校教育部山口教育研究所長

明るく落ち着いた雰囲気のあるクラスでの授業でした。今後さらに効果的な実践とは何かを考え、課題を挙げるとするのなら、授業の流れの中で「ふざけ」と「いじめ」の境を考えることから、いじめの定義までがスムーズだったので、いじめの構造を考える場面に入るのが唐突な印象を受けました。「いじめ」が受けている側の心理状態によるものであることから、いじめられたと感じた時にどうするかを考えることで、加害者以外の存在が浮かび上がるのではないかと思います。また、理由もなく殴る、は「いじめ」という点でまとまっていますが、理由があれば「いじめ」ではないのかについても深める必要があるように思います。「いじめ」のパターンには、いじめられている子には、そうされる理由が本人にあると思われるケースがあるからです。1時間で深めるには難しいテーマではあると思いますが、これからのことを考え

もう一度指導案について検討していくことも大事であると考えます。

●中坂補佐

貴重なご意見とご指摘、ありがとうございます。では、鮎川課長お願いいたします。

●学校教育部鮎川指導課長

何を発表しても聞いてもらえるという安心感、間違えても笑われない安心感が漂う、子供たちにとって居心地のよいクラスだということがよく伝わってきて、日ごろの学級経営の成果が表れていました。改めて、人間関係づくりの大切さを感じました。逆に人間関係ができていないクラス、例えば4月当初の学級開きをした直後や、程度によらずいじめが発生した後のクラスなどで展開するとしたら、この展開でどうだろう？と考えさせられました。次のプログラムを作成するにあたって良いヒントをいただきました。6年生ということもあり、残りの小学校生活だけでなく、これからの中学生に向かっての意欲付けもされていて大変良かったと感じました。

●中坂補佐

それぞれの立場から委員の皆様には貴重なご意見とご指摘をいただきました。これらのご意見を参考にしまして、どのように授業を進めていくことが、いじめをなくす土壌作りへとつながっていくのか、再度指導課でも話し合い、いじめの根絶へ向けた取り組みを進めていきたいと思っております。ありがとうございます。それでは最後に、伊藤教育長より、お話をさせていただきます。

●伊藤教育長

難しい課題にも関わらず多くのご意見をいただき、ありがとうございます。今、申し上げた課題が多いというのを最近になり改めて感じているところです。年末に他の西の方に研修へ出かけた際に、いじめによって重大事態になった場合の対応を5人の教育長同士で議論しました。お一人が途中から、「僕はこれ以上発言できません。」となったのです。設定された時間が終了した後で「どうしたのですか。」と聞いたたら、その方は、四国のある県の教育長さんですが、「僕のところは「一小一中」という規模なので」とおっしゃられる。それは一つの自治体、要するに小学校一校中学校一校という町の教育長さんなのです。「みんなよく言えば仲がいい、悪く言えばそれぞれ家対家で関係ができあがっているから、例えばいじめのようなことがあっても、絶対もめるようなことはない。」だから、「すみません。私は、それ以上のことは経験がないので、想像すらできません。」というようなコメントがありました。なるほど、といろんな自治体がありますが、松戸市というのは人口規模も大きいですし、首都圏の一連という特徴もありますし、いろんな方が住んでいらっしゃいます。学校教育に関しては、いろんな課題が改めて多いところなのかと感じたので、申し上げました。そのような中でも、本当に重要な会議ですので、今後ともお力添えをお願いしたいයි。

●中坂補佐

それでは、事務局西野より連絡を二点申し上げます。

●西野指導主事

それでは、二点ございます。まず一点目、議事録につきましてははまとなり次第、委員の皆様にお送りいたしますので、ご覧くださるようお願いいたします。二点目、次回の定例会の開催につきましては、5月になりますのでよろしくお願いいたします。

●中坂補佐

それでは、閉会の挨拶を鮎川指導課長よりいただきます。

●鮎川指導課長

今日は早朝からご覧いただき、いじめ防止プログラムの授業参観、その後の協議、長時間ありがとうございました。本来であればせっかくの授業ですので、今後いじめ防止プログラムをどのように改善すればよいかということもご協議いただきたかったのですが、お時間がなくて本当に申し訳ございません。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第三回松戸市いじめ防止対策委員会を終了いたします。ありがとうございました。